

受験番号

2022年度

神戸国際中学校 A－Ⅱ選考

国語

(2022年1月15日実施、国語と算数合わせて50分、50点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

① 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

いぜんには、なにに向かって読むということもなしに、手あたり次第に読み、途中でたちどまって書物からひき出されるときとめもない空想や感想にふける、という読み方をする時間があった。※貸本屋がどこにでもあった頃で、時代小説やアスイリ小説を借りては読み、借りては読み、とうとう近所の貸本屋の※大衆小説の棚には目新しい本はなくなってしまうこともあった。

①その体験には本を読むということの、ほんとうに大切な部分があったような気がする。本を読むということは、ひとがいうほどの生活のたしになることもなければ、社会を判断することのたしになるものでもない。また、有益なわけでも有害なわけでもない。生活の世界があり、書物の世界があり、いずれも体験であるにはちがいないが、どこまでも二重になった体験で、どこかで地続きになっているところなどないから、②本を読んで実生活の役に立つことなどはないのである。

また、世界を判断するのに役たつこともない。書物に記載された判断をそのまま受け入れると、この世界はさかさまになる。重たいのは書物の判断で、軽いのは現実の体験からくる判断だというように。これがすべて優れた書物であればあるほど多量にもっている毒である。そこで、書物の判断は、いつもパズルを解くような※反訳をしてからでないと、現実には受け入れられないようにできている。

書物がそういうものであるとすれば、読むことの中には、いつも、なにに向かつて読むのか、ということを中心には、いつても、にしてしまうものがあつて然るべきだ、といったほうがいい。

あなたはなにに向かつて読むのか？

③ こういう本質的な問いにたいして、いまのわたしは、たぶん答える資格を欠いている。学生が試験に向かつて読み、学者が研究に向かつて読み、司法家が法律に向かつて読み、実務家が※利潤リユウに向かつて読み、といったことと、あまり変りのない読み方しかしていないからである。そして、こういう読み方は、読書の中心にある大切なものを欠いた読み方にしかすぎない。

図書館に行くと、すべての書物は、誰かによって手をつけられていることがわかる。けれど、たぶんほんとうに読まれたのではなく、なにかの役にたてようとして読まれる方がほとんどなのだ。余裕もなく、早く結論がみつけれないかどうかと焦りながら。そして、書き手もまた、読み手のせき込みに応じようとして、なにかに尻をたたかれながら書物をつくりあげたという書物が、ほとんどであるかもしれない。

④ある書物がよい書物であるか、そうでないかを判断するために、普通わたしたちがやっていることは誰でも類似している。じぶんが比較的得意な項目、じぶんが体験などを※総合そうごうしてよく考えたこと、あるいは切実に思い煩わづらっていること、などについて、その書物がどう書いているかを、拾って読んでみればよい。よい書物であれば、きつとそういうことについて、よい記述がしてあるから、だいたいその※個処かしょで、書物の全体をブラウナつてもそれほどcケントウセントウが外れることはない。

だが、じぶんの知識にも、体験にも、まったくかわりのない書物にゆきあたったときは、どう判断すればよいのだろうか。

それは、たぶん、書物にふくまれていて世界によってきめられる。優れた書物には、どんな分野のものであっても小さな世界がある。その世界は書き手のもっている世界の縮尺のようなものである。この縮尺には書き手が通り過ぎてきた〈山〉や〈谷〉や、宿泊した〈土地〉や、出遇あひまった人や、思い煩わづらった※痕跡こんせきなどが、すべて豆粒まめつぶのように小さくなくては籠こめられている。どんな※拡大鏡たいかきんにかけても、この〈山〉や〈谷〉や〈土

地)や(人)は、眼には視えないかもしれない。

そう、じじつそれは視えない。視えない世界が含まれているかどうかを、どうやって知ることができるのだろうか？

もし、ひとつの書物を読んで、読み手を引きずり、また休ませ、立ちどまって空想させ、また考え込ませ、ようするにここは文字のひとつと続きのようにならなくても、じじつは広場みたいなところだな、と感じさせるものがあったら、それは小さな世界だと考えてよいのではないか。

この小さな世界は、知識にも体験にもdリネンにもかかわりがない。書き手がいく度も反復して立ちどまり、また戻り、また歩き出し、そして思い煩った場所なのだ。かれは、そういう小さな世界をつくり出すために、長い年月を棒にふった。A棒にふるだけの価値があるかどうかもわからずに、どうしようもなく棒にふってしまった。そこには書き手以外の人の影も、隣人もいなかった。また、そういう道もついていなかった。※行きつ戻りつしたために、そこだけが踏み固められて広場のようになってしまった。

じっさいは広場というようなものではなく、ただの※踏み溜り(たまた)でしかないほど小さな場所、そこからさきに道がついているわけでもない。たぶん、書き手ひとりやと腰を下ろせるくらいの小さな場所にしかすぎない。けれどそれは世界なのだ。⑤そういう場所に行き当たった読み手は、ひとつひとつの言葉、何行かの文章にわからないところがあっても、書き手をつかまえたことになるのだ。

(吉本隆明 『読書の方法』)

※貸本屋：料金を取って、一定期間本を貸し出す店。

※大衆小説：広く一般の読者を対象として娯楽的要素を持った小説。

※反訳：ある言葉で表された文を他の言葉でわかりやすく移し変えて表すこと。ほんやく。

※利潤：利益。もうけ。

※総合：総合。

※個処：特定のその部分。箇所。

※痕跡：過去に何ごとがあつたかを示すあと。あとかた。

※拡大鏡：レンズで物体を大きくして観察する光学機器(光の作用や性質を利用した機器)。

※行きつ戻りつ：行ったり来たり。

※踏み溜り：踏まれることを繰り返されたことで固まって水たまりのようになった場所。

問1 Ⅱ線 aとdのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 に入る最も適切な漢字一字を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 形 イ 無 ウ 心 エ 悪

問3 く線 A「棒にふる」の意味として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人に命令する イ だめにする

ウ 他の人のせいにする エ 大事なものをなくす

問4 Ⅰ線①「その体験」とありますが、どのような体験ですか。それを説明した次の文の空欄に、本文中の適当な言葉をそれぞれ抜き出して入れ、文を完成させなさい。ただし、Ⅰには、十六字、Ⅱには十五字の言葉が入ります。

書物を読むときに、(Ⅰ)という時間を持ち、貸本屋では、(Ⅱ)という体験。

問5 一線②「本を読んで実生活の役に立つことなどはない」とありますが、それはなぜですか。五十字以内で答えなさい。

問6 一線③「こういう本質的な問いにたいして、いまのわたしは、たぶん答える資格を欠いている」とありますが、わたしが「答える資格を欠いている」と考えているのは、どのような読み方をするからですか。「どのような読み方をするから」に続くように二十五字以内で答えなさい。

問7 一線④「ある書物がよい書物であるか、そうでないかを判断するために、普通わたしたちがやっていることは誰でも類似している」とありますが、「よい書物であるか、そうでないかを判断する。」ために、どのように判断しているのですか。次のア～エの説明の中から、最も適切な説明を選び、記号で答えなさい。

ア 自分自身が、理解してきたことも記されていて、知らないこともたくさん書いてあるかどうかで判断する。

イ 自分自身が、興味を持っていて、そのうえ自分への賛成意見が書いてあるかどうかで判断する。

ウ 自分自身が、よく知っていることが書かれてあり、また納得できることが書いてあるかどうかで判断する。

エ 自分自身が、これまで勉強してきたことについて書かれ、課題となることがさらに書いてあるかどうかで判断する。

問8 一線⑤「そういう場所に行き当たった読み手は、ひとつひとつの言葉、何行かの文章にわからないところがあっても、書き手をつかまえたことになるのだ」とありますが、どういうことですか、その説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 作者が、読者に訴えたかったことを、読者自身もわかっていくことで、理解することができたということ。

イ 読者が、今抱える自分の問題についての解答を、作品から無理に読みとる苦勞をせずに、わかったということ。

ウ 作者が、考えぬいて解明したことを、読者自身の考察が加わることで、さらに深まった考えになったということ。

エ 読者が、作者自身の生きてきた中で感じたり、何度も考えたりしたことに、触れることができたということ。

二 次の①～⑥について、それぞれの（ ）に漢字一字を入れると、入れた上の漢字と熟語になり、下の漢字と熟語になります。空欄の漢字は音読みですが、上の漢字と熟語になる場合と、下の漢字と熟語になる場合と、それぞれ違う音読みになります。例を参考にして、それぞれの（ ）に適切な漢字一字を入れなさい。

(例) 成() 職 ↓ (就) 成就・就職

① 大() 場 ② 区() 家 ③ 政() 安
④ 出() 入 ⑤ 人() 接 ⑥ 快() 団

三 次の①～④の文をそれぞれ文節で区切り、いくつ文節があるかを答えなさい。

- ① 神戸は私の大好きな町のひとつです。
- ② 静かで大きな青い海はともおだやかです。
- ③ 日本は海に囲まれたアジアの国です。
- ④ あの美しい青空を私は一生忘れません。